

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	大機 直之	学校名	堺市立福泉小学校
実施学年	1 年生	教 科	生活科
单元名	発表ノートを使って「あさがおの観察」をしよう！		

《学びを深めたいポイント》

本実践は、はじめて自分たちの手で「植物」を育てていきながら、「気づいたこと」、「感じたこと」を観察し、記録する 1 年生の「命との出会い」の場面を、ICT を活用して学習したものである。入学してから、学校生活に少しずつ慣れていき、子どもたちは自分専用のタブレットを受け取った「GIGA 開き」の授業を経て、いよいよ始まった ICT を活用した学習。子どもたちは期待で胸が膨らみ、楽しみな気持ちを隠せない。そんな「はじめて」ずくしの中で、はじめて学習する生活科の ICT を活用した学び。これからはじまる小学校 6 年間での学校生活でしっかりと ICT を活用した「個別最適で協働的な学び」を実践していくことができるよう、丁寧に情報活用スキルの習得をめざす「はじめの一步を踏み出すための」内容を取り入れた。学習に使う教材は、必要な部分を、必要な量だけ DX 化し、デジタルとアナログの双方の良さのバランスを考えながら学習のプランニングをした。

本実践では情報活用スキルを身につけていく中で、「デジタルシチズンシップ」を意識した情報モラル教育の内容も盛り込んだ。ICT 端末は、なんのために使うのか？カメラで撮影した写真に「友だち」が写っていたときはどうすればいいのか？といった小さな疑問に対しても丁寧に指導していく大切な機会だととらえ、指導していく。

そうした中で、子どもたちが自分以外の友だちの意見や考えに触れ、気づき、感じ、考え、自分の考えを深めていくような「協働的な学び」を体験させていく。ある子は、カメラ機能を使って「あさがお」を撮影する際に、友だちと「どうやって撮れば、きれいに見えるの？」といったポイントを話し合いながら取り組んだり、観察記録を書く際には、「こんな色だったよ!」、「前と比べて、だいぶ大きくなった!」といった他者の意見にもクラウドを活用してリアルタイムで触れたりできることが ICT 活用の良さであることにも気づかせたい。

《SKYMENU 活用のポイント》

本実践では、発表ノートを活用してあさがおの観察を繰り返しながら、「自然や命の不思議」に出会う場面で「協働的な学び」を体験し、同時に情報活用スキルの習得をめざしていく。そのために少しずつ学習課題に合った段階的な指導を行っていく。

- ① データの受け取りの方指導：発表ノートの受け取り方 データの見方 開き方
- ② 「カメラ」の操作方法の指導：撮影時の注意点から情報モラルの指導
- ③ 撮影した写真を編集する指導：トリミングやサイズ調整、削除や再撮影の方法を指導
- ④ タッチペンを使った各種描画ツールの使い方の指導：日付や記録をペンツールを使って表現する指導
- ⑤ 作成した作品の提出方法の指導：ドラッグアンドドロップで提出することができるように指導

これらの操作を学ぶ中で、多くの「情報活用スキルの習得」を同時にねらっていけるところも「発表ノート」の良さである。6 年間使っていくツールの操作方法を学ぶ初めに機会に、「楽しい!」、「嬉しい!」と感じる教材で ICT を活用することは大変重要である。この時期に SKYMENU の「発表ノート」を導入することは、大変望ましく、実際学習した子どもたちは、生き生きとした笑顔あふれる姿を見せてくれた。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導 入	1.本時の課題をつかむ (1)大事に育ててきた、それぞれの「あさがお」の状態について話し合う。 (2)本時の課題をつかむ。 「あさがおの観察」という目標に対して児童に課題意識を持たせる。	・本時の目標を示す「あさがおの観察」をするという学習課題(目標)を確認する。 ・ここから展開にかけて、教師機の「画面提示」で「発表ノート」の操作方法を示す。	・「画面提示」を使って全体共有することで子どもたちに視覚的な支援を行い、本時の課題意識を持つための手立てとする。
展 開	2.発表ノートに観察した人の顔写真を撮影し、貼り付ける。 3.撮影した写真(画像)の拡大・縮小、そして「トリミング」の方法を学び、練習する。 4.ペンツールを使って、手書きで観察日の記入をする。 5.「あさがお」の撮影を行う。 6.2 ページめに手書きで観察をして気づいたことを記入する。	・カメラを使って自分の写真を撮影する。(インカメラ、アウトカメラの切り替えの操作方法を知る。) ・指で拡大する「ピンチ」や、メニューから画像を切り取る「トリミング」を行い、貼り付ける画像を適切な形やサイズに調節する。 ・ペンの「自由線」を使って、文字の記入を体験させる。指やペンが触れたところに「線」がかかれることを体験によって学ぶ。 ・上記の撮影練習で学んだカメラ操作方法を活用して「あさがお」を撮影する。 ・ペンツールを使って下記のポイントを記録させる。 ① 色かたち ② 大きさの変化 ③ 触った感じ 【+α】発展 発表ノートをグループワーク化しておけば、子どもたちがクラウドを通して、協働的に作業を行うこともできる。	・カメラの操作方法の指導は、段階的に、起動からシャッターを押して撮影するまで活動の中で丁寧に行う。 ・撮影した写真(画像)を使ったトリミングのや拡大の方法は、子どもたち同士で教え合いながら協働的に作業を行いながら教え合う。 ・自分たちの書いた発表ノートが大型テレビを通して提示され、他の子どもたちの作品も自由にみられるようにしておく。 ・撮影を通して、画面に触れることで AF が機能することなどを体験の中で学ばせる。 ・記入時は、右から書くことや文字の大きさに合わせて、自由に改行して良いことなどを机間指導をしながら適時伝えていく。 ・上記の画面提示よりも、より自由に協働的な学びを行うことができる。

ま と め	7. 作成した観察カードのミニ発表会を行う。	・発表希望する子どもたちの発表ノート画面を提示して共有する。 (児童の画面共有を活用する。)	・次の学習では、みんなの作品を活用してコメント付箋を付け合いながら鑑賞会を行うことも望ましい。
-------------	------------------------	---	---

《実践を振り返って》

【ICT の活用授業のはじまり】

まず、「GIGA 開き」を行った際には、「一人一台」のタブレットをひとりずつ丁寧に手渡していった。「なぜタブレットを学校の学習で使うのか?」、「家での使い方と何が違うのか?」といった点をデジタルシチズンシップの学習を通して学び、小学校では初めての ICT 活用授業を行った。この学習を通して、子どもたちはこれから始まる 6 年間の学習への期待感を感じながら、タブレットを学習に役立たせていこうという意識を強く持つことができた。



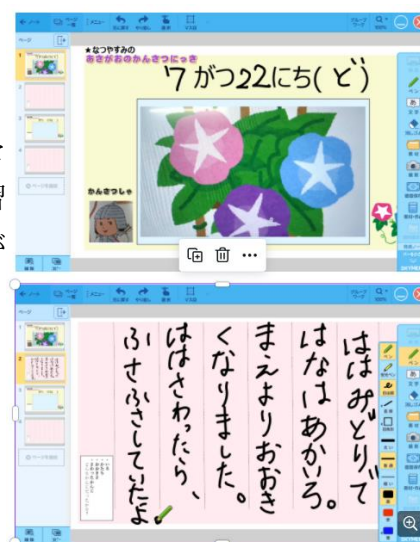
【教材を活かして、情報活用スキルを学ぶ】

子どもたちは、はじめて手にしたタブレットを嬉しそうに使い始めた。初めてなので、端末のログイン方法から丁寧に学習した。初めは戸惑いながらであったが、回数を重ねるごとに「自分の力」でログインやシャットダウンなどの基本的な操作ができるようになっていった。そして、SKYMENU の発表ノートを活用し、ペンツールや手書き入力を体験しながら「文字の入力方法」を覚えていった。配布された発表ノートの中に自分が書いた文字が表示される度に、嬉しそうな笑顔で「見てみて!」と話す子どもたちの姿が大変印象的だった。



【あさがおを観察する場面に ICT を活用して】

今までは、クリップボードに紙のワークシート挟み、観察したないようを記録していた「あさがおの観察」の学習活動を DX することで、本来の学習内容に加えて「情報活用スキル」の育成も行うことができた。カメラの操作を学習する場面では、ただ「使い方の指導」だけにするのではなく、本来の学習内容や「ねらい」を通して学習の必要性に応じ、その学習手段として学ぶ方が子どもたちが自然と学びを深めていく機会になったと思う。



【個別最適で協働的な学びの実現のための第一歩となる学習を「発表ノート」で】

子どもたちがこれから 6 年間を通して、個別最適で協働的な学びを行っていくために必要となる ICT の活用の第一歩を「発表ノート」という分かりやすい教材を活用したことは、子どもたちの情報活用スキルの習得に対して非常に有効的だった。簡単で分かりやすい使い方や、まとめた情報が一目で分かること、さらに「みんなの作品」や「グループワーク」など、クラウドを活用していくことで「他者参照」がしやすいという点も子どもたちの協働的な学びを深めていくための素晴らしい手立てとなっている。この教材と学習を通して ICT 活用の第一歩を踏み出したことに非常に価値があった。

